

2013年度大学入門講座「読書レポート」報告

古屋 玲¹⁾ 齊藤 隆仁^{1, 2)} 三好 徳和^{1, 2)} 荒木 秀夫^{1, 2)}

¹⁾ 徳島大学全学共通教育センター ²⁾ 徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1. 読書レポートを企画するに至った経緯

徳島大学全学共通教育センターでは、理科系科目を中心とする高校から大学への接続教育をより良いものにするために、2012年7月から学内外70余名へのインタビュー調査を行い、分析を行った。その結果、本学学生においても、基礎学力の不足と文章力の低さに問題が集約されるとの結論に至った。これを踏まえ、2012年12月6日に全学共通教育センター FD・SD 企画「学生の文章力向上のための目標・計画・方策等について」を開催し、24名の参加を得て、議論いたしました。その結果、全学共通教育センターとして、まず「活字を読む」ことを習慣づけることが肝要であるとの結論づけた。

その第一歩として、2013年度の新入生から「大学入門講座」において、このプログラム(以下、「読書レポート」と呼ぶ)に参加する学部の学生に

- 附属図書館において書籍等を選ばせる
- 読後、それに関する読書レポートを書かせる
- 提出された読書レポートに対し、少なくとも二名以上の教員がコメントを書く
- コメントを書く教員がレポートに評価を付ける
- 各学部がそれぞれの教育目標と照らしながら「大学入門講座」の成績に反映させる

ことにした。この際、従来は「認定」であった、大学入門講座の成績評価を『優』『良』『可』『不可』の4段階とすること、このための評価指標の

一つとして読書レポートを加えること、しかしその比重については各学部及び各学科で判断していただく形で提案した。

2. 2013年度読書レポートの目的

著者らは、本学に入学したすべての学生に、自ら問いを見つけ、解決し、それをまとめあげる力をつけて卒業してほしいと考えている。この目標を達成するためには、専門教育との緊密な協力が必要なことは論を待たないが、新入生に対しては、とくに次の三点が鍵であると考えた。

1. 入学後の極めて早い段階に附属図書館を利用させ、すべての新入生に附属図書館を利用する習慣を付けさせること。附属図書館では、図書の貸し出しや文献検索支援に留まらず、レポート作成の支援講座や学習支援など、充実したプログラムを多数用意しているため、附属図書館を使いこなせるようになれば、その後の学習活動がスムーズに展開されると考えた。
2. 読むべき書籍等を学生自らに選択させること。これは、常に課題が与えられ続けてきた、高校までの学びからの脱却を図って欲しいとの強い希望があるためである。
3. センター教員と各学部の教員がコメントを返す。これは、問題に対する、正解がひとつであった、高校までの学びと大学での学びは本質的に異なることを新入生に理解してもらうためである。

図に読書レポートにおける学生への指示書を示す。

講演では、読書レポートに関する、教員と学生へのアンケート結果および附属図書館の利用状況の解析にもとづき、2013年度に初めて試みた「読書レポート」について定量的な評価を行いたい。

自ら学ぶ世界へ
未知へのパスポート、
本と附属図書館を使いこなそう！

大学入門講座
「文章力向上のための第一歩」読書レポート

読書レポートとは

高校までの勉強と大学での学びの大きな違いは何だと思いませんか？高校までは、常に課題が与えられてきたと思いますが、大学では課題も自分で探すこととなります。高校までは正答は常にひとつであったと思いますが、大学で学び始めれば、必ずしもひとつでないことにすく気が付くでしょう。今、皆さんは自ら学ぶ新しい世界へ、踏み出そうとしています。今後、卒業研究や症例報告を含む、多数のレポートをまとめることになるでしょう。そんなときに必要とされるのは、専門的知識だけではなく、自ら問いを見つけ、解決し、それをまとめる力が皆さんを支えます。この「威力」は、一朝一夕に身に付くものではありませんが、トレーニングを積み重ねても身に付けられます。その第一歩が附属図書館へ行き、自分で本を選び、読み、それをまとめること、「大学入門講座」の読書レポートなのです。

読書レポートの進め方

1. 借りる

常三島キャンパスまたは蔵本キャンパスの附属図書館を利用します。

2. 読む

3. 要約をする
レポート用紙などを使い、要約の下書きの下書きをします。

4. 要約の下書きをする

配付された下書き用紙を使い、要約の下書きをします。

5. 自分の意見をまとめる

下書きした要約を踏まえ、あなたの意見をメモ形式などでまとめます。

6. 自分の意見の下書きをする

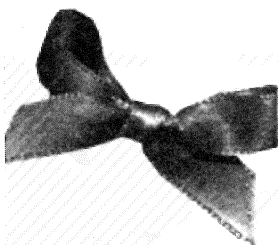
配付された下書き用紙を使い、あなたの意見の下書きをします。

7. 下書きを読み返し、修正する

数日おいて、下書き用紙にまとめた要約と意見を読み返します。あるいは友人に読んでもらいます。これは、読み手の立場になってわかりにくい箇所を見つけだし、直すためです。

8. 清書をする

配付された清書用紙にペンまたはボールペンで清書します。



教員はここを見ます！

丁寧に清書されているか？

文字の綺麗さではなく、丁寧に書かれているかを見ます。

誤字脱字が着しく見られないか？

個々の文において、主部と述部が対応しているか？

修飾関係がわかりやすいか？

修飾している語句とされている語句の対応関係がわかりやすいかを見ます。

文体が統一されているか？

「です、ます」調と「である」調の文が混ざっていないかを見ます。

個々の段落はわかりやすいか？

ひとつの段落で主張することを最小限に留めれば、段落の最初と最後で言っていることが違うというミスは防げます。各段落での「言いたいこと」は何かを見ます。

事実と意見が分離されているか？

著者による報告や主張とあなたの意見が混ざっていないかを見ます。

感想文ではなく、私たちはあなたの意見を求めています！

「おもしろかった」「よかった」という言葉は使ってもかまいませんが、それだけでは成績評価の対象にしません。その本を読むことによって、どのような点において何を考えさせられ、なぜ「おもしろく」感じられたのかを分析してみてください。本を読むまえの自分の考え方や理解と対比させて、どのような新しい視点が加わったかを振り返ってみると良いでしょう。次に、読み手が納得するように、あなたの意見の流れを筋道を組み立てて説明してください。